

# 奈良国立文化財研究所要項

## 一、調査研究概況

### A 総合研究

#### 1 平城宮跡発掘調査

歴史研究室 榎本亀治郎 坪井清足 田中 稔  
田中 琢 岡田茂弘 本村豪章  
狩野 久 八賀 晋 河原純之  
建造物研究室 杉山 信三 工藤圭章 沢村 仁  
鈴木 充 牛川喜幸

平城宮跡発掘調査部 斎藤 忠  
本年度は第12、16次の5回にわたって調査をおこなった。(本文2頁・35頁参照)

#### 2 西大寺調査

美術工芸研究室 守田公夫 長谷川誠 清野智海  
歴史研究室 田中 稔 狩野 久  
本年度は主として彫刻の調査(本文9頁参照)と中世・近世文書の調査をおこなった。

#### 3 仁和寺の研究

建造物研究室 杉山信三  
歴史研究室 田中 稔 狩野 久  
昨年度に引続き、聖教古文書、主として塔中蔵の収納品を中心に調査した(本文31頁)。なお、過去数年間の調査成果の一部を「仁和寺史料 寺誌編一」として公刊した。

#### 4 古代都城制の研究 平城京の復原的研究

(文部省科学研究費交付金による機関研究)  
歴史研究室 榎本亀治郎 坪井清足 田中 稔  
田中 琢 岡田茂弘 本村豪章

### B 各個研究

#### I 美術工芸研究室

1 舍利塔の様式的研究 守田 公夫  
唐招提寺様式は調査を終り、引続き西大寺様式の関係資料の検討を行っている。

2 工芸作品に見られる文様の日本の展開の研究 守田 公夫  
多くの工芸作品にみられる文様を外来的と日本のものに大別し、さらに品種別にし、その発展過程を辿ることにおいて、文様の日本の展開の様相と、その作品のもつ美術工芸的価値を美術史的に研究する。

3 藤原彫刻の研究 長谷川 誠  
藤原和様の形成と様式の変遷の究明のため造立年次の確かな像例を調査している。本年度は霊山寺薬師三尊及び六波羅蜜寺諸像を調査した。

4 仏像納入文書の集成調査研究 長谷川 誠  
従来調査収集した35例を整理中で東大寺中性院弥勒菩薩像、伝香寺地藏菩薩像、同南無仏太子像、円成寺南無仏太子像について再調査した。

5 奈良様彫刻の研究 長谷川 誠

建造物研究室 狩野 久 八賀 晋 河原純之  
森 蘊 浅野 清 杉山信三  
工藤圭章 沢村 仁 鈴木 充  
牛川喜幸

平城京内千分ノ一の地図16面を作成、京内地籍図条坊古図など関係資料を集め、現地調査を併行しておこない、平城京の復原的研究を開始した。

奈良彫刻の形成とその伝流について調査研究するもので、現在広く南都諸大寺の資料収集に当たっている。本年度は薬師寺、円成寺、飛鳥寺、蟹満寺、奈良市街諸寺三十五ヶ寺について調査した。

6 両界曼荼羅の思想構造とその図像学的変遷に関する研究 清野 智海  
前年度に引続き、九会金剛界曼荼羅の成立に焦点をおいて研究をおこなった。

7 平城京諸大寺を中心とする仏教絵画の調査研究 清野 智海  
平城京周辺の小寺院に伝わる仏教絵画を調査し諸大寺との関連を資料のうえから研究している。

8 その他の調査 守田公夫、長谷川誠、清野智海  
舞鶴市教育委員会の要請によつて同市松尾寺、多福寺ほか十三ヶ寺の彫刻調査をした。

また吉野天川村及び西吉野村の彫刻調査を行った。

#### II 建造物研究室

1 大安寺の発掘調査 森 蘊 杉山信三 坪井清足 工藤圭章  
沢村 仁 田中 琢 岡田茂弘 本村豪章  
鈴木 充 八賀 晋 河原純之 牛川喜幸  
小学校体育館建設に伴う地下調査で、奈良県教育委員会に協力し、大安寺講堂・僧房・鐘楼・井屋などの遺構を発掘した。また、旧寺域の現地形の実測調査をおこなった。

2 興福寺一乗院の調査 研究者1に同じ  
奈良県教育委員会の調査に協力して、地下遺構の検出をおこなった。(本文26頁参照) また、関係資料を集収し、一乗院の歴史の変遷を追求した。

3 解体修理に伴う調査

杉山信三 工藤圭章 沢村 仁 鈴木 充  
奈良県教育委員会に協力し、南法華寺礼堂・興福寺北円堂の遺構・遺跡の調査をおこなった。

4 鳥羽離宮の調査 杉山信三 牛川喜幸  
京都府教育庁のおこなった鳥羽離宮の庭園遺跡の発掘調査に協力した。

5 奈良市内古民家・古社寺の調査 杉山信三 工藤圭章 沢村 仁 鈴木 充  
奈良市教育委員会の依頼により、奈良市内の古民家・古社寺の調査を実施した。

6 奈良県および京都府下の茶座敷と露地の調査 森 蘊 牛川喜幸  
奈良県下では依水園三秀亭と蔵松庵跡付近一帯の実測調査、称名寺独炬庵および東大寺四聖坊など珠光好茶座敷及露地の実測と関係資料の集取、宗珠松屋など奈良出身茶人関係資料の検討をおこなった。

京都府関係では慈照寺東求堂、漱辭亭跡付近、西芳寺湘南亭・北亭跡・縮遠亭への通路付近・醍醐寺三宝院松月軒沈流亭付近、仙洞御所又新亭・醒花亭女院、御所寿山御茶屋跡付近、桂離宮竹林亭跡付近、修学院離宮彎曲閣・止々齋跡付近その他の実測調査をおこなった。

7 小堀遠州関係資料の調査

森 蘊 牛川喜幸  
小堀遠州居宅（伏見六地藏、大阪天満、伏見豊後橋詰、京都六角堀川）の位置確認と建築庭園関係資料の収集をおこない、寛永度大阪城指図中の数奇屋くさりの間などの検討、延宝度（元和造営）近衛殿指図の三つの数奇屋的茶座敷と本源自性院殿（高岡）慶安四年指図の比較、松屋会記・甫公伝書・孤逢庵

茶湯無尺藏・茶湯秘抄所収遠州関係茶座敷指図と城州伏見御旧宅図の数寄屋及び露地の比較検討をおこなった。

8 鎌倉時代仏堂の構築と小屋の発展（文部省科学研究費交付金による研究） 工藤圭章  
いわゆる本堂とよばれる仏堂の小屋組を、パンチカードによって整理して四種に大別分類し、奥行の深い仏堂の出現に伴つての小屋組の変遷を大系づけるに努めた。

9 遺物・遺跡の写真測量による研究 牛川喜幸  
写真測量を遺跡・遺物の調査研究に応用する方法について研究し、一部実施した。（本文24頁参照）

III 歴史研究室  
1 南都諸大寺関係文書の調査 田中稔、狩野久  
35年度以降継続中の唐招提寺所蔵の古文書教典類の調査として、本年度は古写経を重点的に調査した。大半は平安時代初期以前に属する優秀なものである。

2 古代測地法の復原的研究（文部省科学研究費交付金による研究） 坪井清足  
古代測地法には、真北と磁北を基準にする二系統

D 昭和38年度文部省科学研究費交付金による研究

の技術があつたとみられる。特に、後者の内容を究明するため、遺構遺物の熱残留磁気を測定し、古代の磁北の偏向の変化をたどる試みを実施した。さらにその成果を分析し航空写真・地籍図などによって判明する古代地割と照合研究した。

3 古代土器生産の研究（文部省科学研究費交付金による研究） 田中 琢  
平城宮出土土器は各地の生産地から供給されている。その出土品を中心に各地の生産地の製品との比較研究をおこない、古代土器の生産と供給の実態解明に努めた。

C 研究発表  
1 昭和38年5月25日（於本所）  
西寺跡の調査と平安京の条坊  
平城宮跡の出土遺物 田中 琢  
仁王会本尊図の展開について 清野 智海  
昭和38年11月2日（於本所）  
大安寺発掘調査報告 杉山 信三  
西大寺弥勒菩薩坐像について 長谷川 誠  
平城宮跡出土の木簡について 狩野 久  
昭和38年9月14日（於平城宮発掘調査事務所）  
平城宮跡発掘調査現地報告会

研究課題	種類	研究担当者	交付金
古代都城制の研究 第一部 平城京の復原的研究	機関研究	榎本亀治郎	6,500,000円
古代測地法の復原的研究	各個研究	坪井清足	100,000円
古代土器生産の研究	同	田中 琢	50,000円
平城宮跡出土品との比較研究	同	工藤圭章	80,000円
鎌倉時代仏堂の構築と小屋の発展	同		

二 組 織

A 文化財保護法 抜萃 (昭和二十五年五月三十日) (法律第二一四号)

第二十条 委員会の附属機関として文化財専門審議会、国立博物館及び国立文化財研究所を置く。  
第二十三条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う。  
2 国立文化財研究所の名称及び位置は、左の通りとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東 京 都
奈良国立文化財研究所	奈 良 市

4 3 国立文化財研究所には支所を置くことができる。  
国立文化財研究所及びその内部組織は、委員会規則で定める。

B 奈良国立文化財研究所組織規程

(昭和二十七年三月二十五日) (文化財保護委員会規則第五号)

沿革

昭和二十九年六月二十九日文化財保護委員会規則第一号改正  
昭和二十九年九月一日 " " " " 第二号改正  
昭和三十六年九月一日 " " " " 第三号改正  
昭和三十八年四月一日 " " " " 第四号改正  
昭和三十九年三月二日 " " " " 第一号改正

(奈良国立文化財研究所の組織)

第一条 奈良国立文化財研究所の所掌事務を分掌させるため、庶務課、次の三室及び平城宮跡発掘調査部を置く。

- 美術工芸研究室
- 建造物研究室
- 歴史研究室
- 平城宮跡発掘調査部に、その所掌事務を分掌させるため、次の五室を置く。
- 2 第一調査室
- 第二調査室
- 第三調査室
- 保存整理室

三 研究 成 果 刊 行 物

奈良国立文化財研究所学報

年 度	名 称	担 当 者
昭和29年度	第一冊 仏師運慶の研究	小林 剛
昭和30年度	第二冊 修学院離宮の復原的研究	森 蘊
昭和31年度	第三冊 文化史論叢	小林剛・森蘊・杉山信三・田中一郎・田中稔
昭和32年度	第四冊 奈良時代僧坊の研究	浅野 清・鈴木嘉吉
昭和33年度	第五冊 飛鳥寺発掘調査報告	浅野 清・杉山信三・坪井清足・鈴木嘉吉
昭和34年度	第六冊 中世庭園文化史	森 蘊
昭和35年度	第七冊 興福寺食堂発掘調査報告	坪井清足・鈴木嘉吉
昭和36年度	第八冊 文化史論叢	小林 剛・守田公夫・浜田 隆・杉山二郎
昭和37年度	第九冊 川原寺発掘調査報告	杉山・坪井・鈴木・田中(稔)・工藤・田中(琢)
昭和38年度	第十冊 平城宮跡I・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	杉山・坪井・鈴木・工藤・田中(琢)・岡田・岩本
	第十一冊 院家建築の研究	杉山信三
	第十二冊 巧匠安阿弥随仏快慶	小林 剛
	第十三冊 寝殿造系庭園の立地的考察	森 蘊
	第十四冊 「レース」と「金亀舍利塔」に関する研究	守田公夫
	第十五冊 平城宮発掘調査報告II	坪井・鈴木(喜)・田中(稔)・工藤・田中(琢)
	第十六冊 平城宮発掘調査報告III	岡田・狩野・河原
昭和38年度	官衙地域の調査 内裏地域の調査	岡田・狩野・河原・岩本

奈良国立文化財研究所史料

昭和29年度	第一冊 南無阿弥随仏作善集複製	田沢 坦
昭和30年度	第二冊 西大寺敬尊伝記集成	小林 剛
昭和38年度	第三冊 仁和寺史料 寺誌編一	田中 稔・狩野 久

史料調査室

(庶務課の所掌事務)  
 第二条 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 別に文化財保護委員会から委任を受けた範囲における職員的人事に関すること。
- 二 公文書の接収及び公印の管守その他庶務に関すること。
- 三 経費及び収入の予算、決算その他会計に関すること。
- 四 行政財産及び物品に関すること。
- 五 職員福利厚生に関すること。
- 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

第三条 美術工芸研究室においては、絵画、彫刻、工芸品、書跡その他建造物以外の有形文化財及び工芸技術に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

第四条 建造物研究室においては、建造物に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

第五条 歴史研究室においては、考古及び史跡に関する調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

第六条 第一調査室、第二調査室及び第三調査室においては、所長の定めるところにより分担して、平城宮跡の発掘及び調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

2 保存整理室及び調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

3 史料調査室においては、平城宮跡に関する史料の収集及び調査研究並びにその結果の普及及び活用に関する事務をつかさどる。

(所長)  
 第七条 奈良国立文化財研究所に所長を置く。  
 2 所長は、所務を総理する。  
 附 則  
 この規則は、昭和三十九年四月一日から施行する。

四 職 員

(昭和39年8月1日現在)

所属	氏名	官	職	担当
庶務課	小林 剛	文部技官	課長	事務統轄
	五田 次雄	文部事務官	庶務係長	庶務
	紺野 栄	同	庶務係長	庶務
	西村 縣治	同	庶務係長	庶務
	坂口 義尚	同	庶務係長	庶務
	岩本 次郎	同	庶務係長	庶務
	丹阪 信次	警務員	警備	警備
	木賀 忠雄	同	警備	警備
	森田 光治	同	警備	警備
	岡田 博光	同	警備	警備
	西田 健三	技能員	自動車	自動車
	今西 正美	事務補佐員(非常勤)	庶務	庶務
	小谷 温子	同	庶務	庶務
	森田 末	同	庶務	庶務
	大西朝次郎	同	庶務	庶務
林 久子	同	庶務	庶務	
渡辺 衆芳	技術補佐員(同)	庶務	庶務	
守田 公夫	文部技官	工芸	工芸(平)	
平田 寛	同	工芸	工芸	
長谷川 誠	同	工芸	工芸	
森 蘊	文部技官	彫刻	彫刻	
浅野 清	文部技官	遺跡庭園(平)	遺跡庭園(平)	
杉山 信三	文部技官	建築	建築	
樺本亀治郎	文部技官	建築	建築	
坪井 清足	文部技官	古	古	
木村 豪章	同	古	古(歴)	

所属	氏名	官	職	担当
第二調査室	鈴木 充	文部技官	課長	建築
	藤井 功	同	課長	建築
	森 郁夫	同	課長	建築
	石井 則孝	同	課長	建築
	荒木 伸介	同	課長	建築
	佐藤 興章	同	課長	建築
	工藤 非章	文部技官	課長	建築
	茂弘	同	課長	建築
	岡田 喜幸	同	課長	建築
	八賀 晋	同	課長	建築
	三輪 嘉八	同	課長	建築
	猪熊 兼勝	同	課長	建築
	東頭 清明	同	課長	建築
	高島 忠平	同	課長	建築
	沢村 仁	文部技官	課長	建築
河原 純之	同	課長	建築	
工藤 普通	同	課長	建築	
町田 拓実	同	課長	建築	
横田 正司	同	課長	建築	
栗原 和彦	同	課長	建築	
松田 浩一	文部技官	課長	建築	
横田 真	同	課長	建築	
佐原 義真	同	課長	建築	
横田 扶桑	同	課長	建築	
八幡 幹雄	同	課長	建築	
佃 久	文部技官	課長	建築	
狩野 太作	同	課長	建築	
伊東 久	同	課長	建築	

(平)は平城宮跡発掘調査部、(歴)は歴史研究室、(建)は建造物研究室、(庶)は庶務課の兼務を示す。